

Epistula

大分県立芸術文化短期大学広報誌 エピストウラ

EPISTULA: 古典ラテン語で“手紙”という意味です。
広報室からみなさまへ、芸文短大の“いま”を伝えるお手紙をお届けします。



美術科・専攻科造形専攻の学生と教員ら (So Graphics MIX 山本容子氏特別講演)

Epistula
OITA PREFECTURAL COLLEGE OF ARTS AND CULTURE
Public Relations Magazine

Vol. 74
2024.SPRING

大分県立芸術文化短期大学広報誌「EPISTULA」2024年3月1日発行 通巻74号
大分県立芸術文化短期大学 〒870-0833 大分市上野丘東1番11号 TEL 0975-450542 代表 FAX 0975-450543

特集

美術科・音楽科・国際総合学科 ・情報コミュニケーション学科 4学科1年間の活動報告



恩師からのメッセージ Message from my mentor

音楽科 清水万敬



(写真) 2024年1月 最後の個人レッスン

ご卒業、ご修了、おめでとうございます。平成20年度に本学に赴任しましたが、私も皆さんと一緒に卒業致します。当時からは、今の景観は想像も出来ませんでした。かつての学生食堂に楽器を選びオーケストラと合唱の練習や豪雨の際には小ホールに臨時ホールができたりと懐かしい思い出となりました。また、学科長を務めているときに大規模改修工事が始まり、音楽ホール棟の壁の色・廊下の材質、灯りの選別、椅子の種類などを選定しました。中でも学長代行の期間中に工事事務所が火事となり、大きく報道されましたことは忘れることが出来ません。巡回演奏会、教育実習巡回指導、高校訪問、アクロス福岡での定期演奏会など多くの思い出を作ってくれました。2年間(専攻科4年間)で、しっかりと社会に貢献できる人材として世界に羽ばたいて下さい。本学の優しさが今後も脈々と受け継がれていくことを切に願っております。

国際総合学科 朴貞蘭



(写真) 2018年11月 学生と一緒に

11年間、大変お世話になりました。芸文短大では、かけがえのない出会いにたくさん恵まれました。心から感謝いたします。日本で初めて就職が決まった時に、日本の恩師からいただいたお言葉を、この場をお借りして在学生や卒業生の皆さんにつなげておきたいと思っております。「自分の全く知らない誰かが、あなたのこと、あなたの仕事をどこか知らないところで見ています。で、あるとき、見られていたことに気づくことがあります。一生懸命に生きていると、必ずそうした経験に出会うことがあると思います。」皆さんのこと、陰ながら応援しています。
감사합니다! 늘 건강하고 행복하세요!

国際総合学科 光野百代



(写真) 2018年4月 国際総合学科の先生たちと

2016年9月より7年半お世話になりました。私がかれこれ一番長く働いた職場で、また僅差で2番目に長く居住した場所になります。あつという間の7年半で、かなり驚いています。大学教職員の皆様、一緒に学んだ学生さん、そして授業や研究活動等で協働していただいた地域住民の皆様、本当にありがとうございました。
九州出身ですが、初めて大分に住んで九州地方の多様性への気付きもありました。私はカボスが好きで、大分でカボス満喫を楽しみにしていましたが、豊富な食糧の生産を誇るだけでなく、ご近所で野菜・果物の収穫物が匿名で「おすす分け」される文化などがあり、興味深かったです。どうぞお元気で。さよならです。



芸文短大 検索 <https://www.oita-pjc.ac.jp>

大分県立芸術文化短期大学の公式 SNS では、本学が主催するイベント・展覧会等のお知らせをはじめ、キャンパス内の様子や学生たちが行うさまざまな活動について報告しています。また、学科や研究室のほか、サークル、イベント等でも SNS を立ち上げています。

○大分県立芸術文化短期大学



○美術科



○国際総合学科



○音楽科



○情報コミュニケーション学科



「第12回インテリア設計士の家具デザインコンペ」で優秀賞を受賞

大分県インテリア設計士協会主催の「第12回インテリア設計士の家具デザインコンペ」にて本学専攻科造形専攻の学生が優秀賞を受賞しました。

このコンペは、九州各県内に在籍する高校生・専門学校生・大学生を対象にしたデザインコンペです。優秀賞を受賞した専攻科造形専攻プロダクトデザインコースの恒松琴葉さんは、「寄りかかるカタチ」をテーマに立ったまま寄りかかって休息できる椅子を提案しました。審査員からは「実際にモックアップを制作して機能性を実証している点がユニークな手法であり、様々な面で高いクオリティをもつ意欲作です」と講評されました。



「うすき竹育」に参加しました

11月4日、5日で開催された「うすき竹育」に本学美術科プロダクトデザインコースの学生有志16名が竹の造形作品を展示しました。

会場となった旧白杵藩稲葉家下屋敷の庭園に、50本の竹の造形作品を配置し、庭園や屋敷の豊かな雰囲気と共鳴し合うように、シンプルかつダイナミックに空間構成しました。

造形作品は長さ2.7Mの竹を一節残して16分割し、下にろうそくを灯しています。これにより、分割した竹の内側がろうそくのやさしいあかりで浮かび上がり、幻想的な風景を作り出します。来場者は屋敷の縁側に腰掛け、ゆっくりと鑑賞していました。



高校必修科目「情報I」の教育支援動画を制作しました

「造形研究II(担当:西口顕一准教授)」を履修する専攻科造形専攻ビジュアルデザインコースの学生が高校必修科目「情報I」の教育支援動画を制作しました。「情報I」の中の「コミュニケーションと情報デザイン」を範囲として、専任教員によるアドバイスの元、シナリオから絵コンテ、デザイン、編集まで全ての工程を学生が手掛け、シンプルで伝わりやすい動画を目指して制作。情報コミュニケーション学科野田研究室との合同発表会では関係者が出席し、各研究室の取り組みの経緯の説明の後実際に制作した動画を視聴しました。西口研究室の取り組む『情報デザイン』支援動画は今年度中の完成予定です。



ダンスユニット「Bloom」のダンス映像を制作

メディアデザイン映像ゼミでは、短大1年生が講義「デザインI」において、地元エンターテインメント企業「Jエンタープライズ」所属のダンスユニット「Bloom」のダンス映像を制作しました。制作した映像は、実際にPR映像として採用され、ダンサーさんの魅力を今も伝えています。実践的な講義の中で多くを学び、成長すると共に、若いアーティスト同士、お互いに良い刺激を得る機会になりました。



展覧会「So Graphics MIX」山本容子氏及び西村正幸氏による特別講演を開催

大分市美術館にて美術科デザイン専攻グラフィックアートコースによる展覧会「So Graphics MIX」を開催しました。今回、「交流/融合」として「MIX」に着目し、アートやデザインの分野でも異なる要素を発展的に捉え、グラフィックアートコースの学生の作品と共に、ゆかりのあるアーティストの作品32点を加えた展示となりました。また、銅版画家山本容子氏、美術家西村正幸氏をお迎えし特別講演会を開催。山本容子氏はアーティストとして多くのデザインプロジェクトにも携わってきた経歴を持たれており、展覧会会場では関わられた書籍と作品の展示、講演会では「アーティストとビジネスの関わり」をテーマにキャリアを通じて得た知見や洞察、アートがビジネスとどのように交わり、相互に豊かな影響を与えるかについてお話いただきました。



劇団立見席さんのステージを映像で空間演出しました

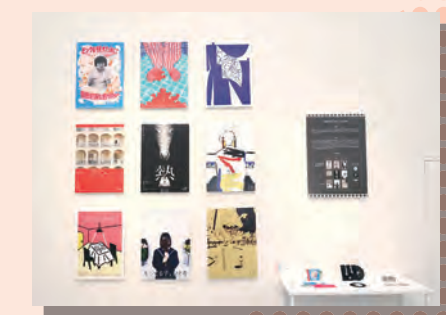
12月2日(土)、メディアデザイン映像ゼミが「おんせん 公演劇祭 in ピーコンプラザ vol.3」に参加。劇団立見席さんの公演にて映像でステージの空間演出しました。サクソプレイヤー、本多俊之さんも同じステージにてモーショングラフィックス映像と共演、満員御礼の拍手を受けました。

また、この公演は、OBSさんにて広く生中継され多くの人に楽しんでもらうことができました。学生にとっては映像演出やオペレーションの機会にもなり、よい経験になりました。



「第62回美術科卒業・修了制作展」を開催

2024年1月30日(火)~2月4日(日)に大分県立美術館 OPAM(1F展示室 A:デザイン専攻、3F展示室 B:美術専攻)にて「第62回美術科卒業・修了制作展」を開催。短大生は2年間、専攻科生は4年間、芸短大で美術やデザインを専門的に学び、その集大成となる研究・作品発表の場として、全96名による(149)点の作品を展示しました。各分野の関係者の方や、県民・保護者の皆様、高校生と沢山の方々に観覧いただきました。





地域巡回演奏会を開催しました

9月11日(月)に大分市立東陽中学校、9月12日(火)に大分市立植田中学校にて、令和5年度の地域巡回演奏会を開催しました。

本学音楽科、専攻科音楽専攻の学生34名が、オペラハイライト、ピアノソロ、弦楽アンサンブル、木管五重奏、金管五重奏、合唱などを披露しました。また、最後には中学生と一緒に校歌を歌いました。

普段なかなか聴くことのできないオペラや各楽器の音色に、中学生は、真剣に耳を傾けていました。



専攻科音楽専攻学生による「Vivace concerto」を開催しました

専攻科音楽専攻2年生を中心に今回初めて企画した本学専攻科音楽専攻学生による「Vivace concerto」を11月29日(木)、本学音楽棟小ホールで開催しました。

公演では、オペラ《ノルマ》より「ご覧ください、ノルマ様」、オペラ《蝶々夫人》より「花の二重唱」などのオペラハイライトを披露。4年間の成果を発表し、来場者より温かい拍手をいただきました。



小林道夫客員教授声楽特別講義を開催しました

12月1日(金)、2日(土)の2日間、本学音楽棟小ホールで「小林道夫客員教授声楽特別レッスン」を開催し、専攻科音楽専攻の13名が受講しました。

発音や歌の表現手法のほか、参考となる歌手、声楽家として生きていくための心構えなど、学生ひとりひとりの個性に合わせて的確なアドバイスをいただきました。また、伴奏のピアノ演奏者に対してもひとつひとつの音の大切さを指導いただきました。



「三浦文彰氏によるヴァイオリン・ソロ/オーケストラマスタークラス」を開催しました

12月18日(月)、本学音楽ホールで、世界最難関といわれるハンノーファー国際コンクールにおいて史上最年少で優勝したバイオリニスト 三浦文彰氏によるヴァイオリン・ソロ/オーケストラマスタークラスを開催しました。音楽科管弦打コースの学生2名がヴァイオリン・ソロ マスタークラスを受講し、弦の操り方やポイントなど、マンツーマンの指導を受けました。

オーケストラマスタークラスでは、《ヴァイオリン協奏曲 二長調》作品61/ベートーヴェンを演奏し、学生は一流の奏者との演奏を喜びました。



オペラサークル『Opera Piena Di Vita』によるオペラガラコンサートを開催しました

12月26日、本学のオペラサークル「Opera Piena Di Vita」が『オペラガラコンサート』の公演を本学 音楽ホール棟音楽ホールで行いました。

今回は、ドニゼッティ作曲『愛の妙薬』、モーツァルト作曲『魔的』『フィガロの結婚』、ヴェルディ作曲『椿姫』から16曲を披露しました。演目の幕間にはオペラの場面解説もあり、観客は歌の魅力とその演技に聞き入りながら鑑賞し、賑やかな公演となりました。

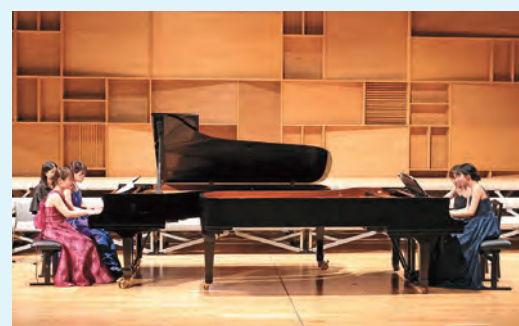
音楽科ではこの言葉をモットーに、できるだけ多く本格的なステージに立って演奏する機会が学生たちに与えられています。今年度もさまざまな演奏会を開催しました。その一部をご紹介します。

音楽科では「1回の舞台経験は、100回の練習に勝る」をモットーに、音楽科コンサートシリーズなどを開催しました。

**1回の舞台経験は
100回の練習に
勝る!**



9
September
9月には前期実技試験成績優秀者による「若さあふれるコンサート」を開催。



11
November
11月以降は各コースの特色あふれる「ピアノコース演奏会」を開催。



2
February
「声楽コース演奏会～声の饗宴～」を開催。



10
October
10月には学科総動員の「第59回定期演奏会」を初の県外で実施。



12
December
「管弦打コース演奏会～師走に心温まるひとときを～」を開催。
また、年度末には1年間の集大成である「第62回 卒業演奏会」、専攻科音楽専攻「第40回修了演奏会」を下記の日程で開催します。

第62回卒業演奏会

日時 3月17日(日)
17:00開場/18:00開演
場所 本学 音楽ホール棟音楽ホール

第40回修了演奏会

日時 3月18日(月)
17:00開場/18:00開演
場所 本学 音楽ホール棟音楽ホール



オープンキャンパスを開催

8月5日(土)、国際総合学科のオープンキャンパスを開催しました。「学科紹介」「活動紹介(アメリカ語学実習)」「ミニ講義」「キャンパスツアー」「入試・学生生活相談」などを企画し、「ミニ講義」では、宮野幸岳准教授による観光学講座や許挺傑准教授による中国語講座を開催し、ミニクイズで参加者に楽しんでいただきました。

また、在学生に質問や相談ができるカフェスペースを設置、和やかな雰囲気と美味しいお茶で、参加した生徒さんたちの緊張もほぐれたようで、話がはずんでいるようでした。



国際総合学科の学生25名が、第42回大分国際車いすマラソン(11月19日開催)に、ボランティアとして海外選手の通訳やアテンドをしました

海外選手が来県している期間中、練習や食事、大会受付などに付き添い、大会以外にも1週間ほど全面的にサポートしました。大会当日は、スタート時点まで案内やゴール後は水やタオルを配付する等した後、夜は交歓パーティーをしました。

参加した2年生の Kさんは、「私は卒業後、海外で生活したいと考えており、車いすマラソンの機会は、私にとってのもすごく価値のあるものであり、能力の向上にも非常に役に立ちました。この活動で得た能力は、海外でリスニングや会話をするとき活かせ、さらには、ボランティア精神として海外選手だけでなく、すべての人に役立てられると思います」と感想を述べました。



江漢大学から3年ぶりに留学生を迎えました

本学では、2009年2月に中国 武漢市にある江漢大学と交流に関する協定を締結し、2013年度より、江漢大学から留学生を受け入れています。今年3年ぶりに、中国の江漢大学から4名の留学生を迎えました。

4月5日の入学式には地元テレビ局も取材に訪れ、滞在中にやってみたくて日本語で答えました。4名の留学生は4月から1月までの間、国際総合学科で充実した学生生活を送っていました。



駐アイルランド大使丸山則夫氏による特別講義を開催しました

9月21日(木)、駐アイルランド日本国特命全権大使 丸山則夫氏が本学を訪問し、国際総合学科の2年生に、外交を通じて経験した国際社会から見る日本の長所、食文化の違いから見る賓客への心遣いについて、講演いただきました。

講義を受講した学生からは「相手の文化を理解しおもてなしすることが大事だと学びました。この学びを活かし、これから社会に出た際に国境を越え、様々な国と交流を深め、日本の良さや大分の良さを発信できる人材になりたいと強く感じました。そのためには日本の食や文化についてより勉強していかなければならないと思いました。」と感想が寄せられました。



2023年度 秘書検定で国際総合学科の学生が1級に合格しました

公益財団法人 実務技能検定協会主催の2023年度ビジネス系検定の秘書検定で、国際総合学科2年の井上寧々さんが1級に合格しました。この検定は社会人スキルが問われる難しい検定で、本学からの合格者は4人目となります。

1級の問題はすべて筆記となり「特にシチュエーション問題が難しかった。高清水理奈子講師のレクチャーや、家族などの社会人に経験を聞き勉強をしました。また、お辞儀の角度を体で覚えるために手作りのお辞儀表を玄関に置き、毎日玄関を通るたびにお辞儀の練習をしました。」と井上さんは話します。

後輩へ向けて「学歴に勝る武器はマナーだと思います。誰かが教えてくれる環境がある今のうちに勉学に励んでください」とエールを送りました。

**国際総合学科
年間活動報告**

平成25年(2013年)、私たち国際総合学科は、前身である「国際文化学科」を改組し、「国際コミュニケーション」「観光マネジメント」「現代キャリア」からなる3コースを導入して、新たなスタートを切りました。そして本年度(令和5年・2023年)、国際総合学科はちょうど10周年を迎えた記念の年であったといえます。

本学科では、例年さまざまな国際交流活動が行われています。世界中にまん延した新型コロナウイルスが5類へと移行し、本学でも対面授業が本格的に再開されました。これに伴い、3年ぶりに中国・江漢大学から4名の留学生を迎えることが出来ました。さらに約3週間にわたる韓国・釜山外国語大学での語学実習も再開しました。このことに関連して、2023年の夏に本学科の学生が韓国語短期研修奨学生選抜試験(韓国政府が「授業料・航空券・宿泊費・食費」をすべて支援)に合格したことも、喜ばしいニュースとして挙げられます。加えて、アメリカ、フランスなどへの海外語学実習も順次再開する予定であり、国際的な学びの機会を復活させるために、学科全体で試行錯誤し奮闘した一年でもあったといえます。

さらに大分国際車いすマラソンで海外選手の通訳ボランティアとして活動したり、宇佐市・安心院や中津市においてフィールドワークを行ったりと、学生たちはキャンパス外での課外活動にも積極的に取り組みました。

また、授業の一環として、大分合同新聞社や富士通(株)、サイボウズ(株)、駐アイルランド大使など、様々な分野の外部講師にご講義いただき、経験に則した貴重な言葉に触れることができたことは、学生たちにとって大きな刺激と学びになったと思います。

私たち国際総合学科は、学生と教員が一丸となって「学び」の充実を模索しながら、地域社会や国際社会への還元を常に実践しています。

サービスラーニング情報

2023年度は、前期・後期を通じて計48のサービスラーニングの活動を行いました。大分県内各地に出向き、地域の問題解決に資するために活動し、コミュニケーション力や協調性を向上させました。以下に紹介しきれない活動内容については、学科専用のホームページおよびInstagramで紹介をしていますので、QRコードからご覧ください。

Instagram

ホームページ



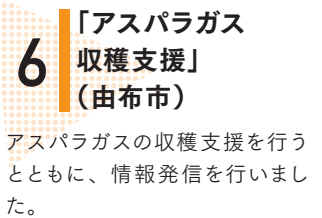
2 「食育ツーリズム」
(竹田市)

少子高齢化の進む竹田市で、とうきびの収穫・加工・販売を行いました。



4 「竹楽」
(竹田市)

竹灯笼の作成、デザイン、点火作業を支援し地域観光に貢献しました。



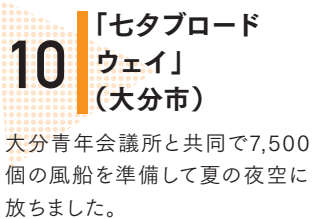
6 「アスパラガス
収穫支援」
(由布市)

アスパラガスの収穫支援を行うとともに、情報発信を行いました。



8 「大分トリニータ
集客活動」
(大分市)

大分トリニータの対戦日に、レゾナックドームでフェイスシールを販売しました。



10 「七塔ブロード
ウェイ」
(大分市)

大分青年会議所と共同で7,500個の風船を準備して夏の夜空に放ちました。



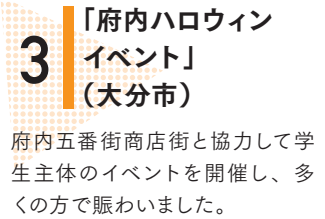
12 「佐野植物園での
ワークショップ」
(大分市)

ワークショップを企画・準備し、1,000名を超える親子連れの方々に楽しんで頂きました。



1 「別府市内清掃活動
および歴史探索」
(別府市)

別府市内の歴史や観光について学びながら、海岸の清掃活動を行いました。



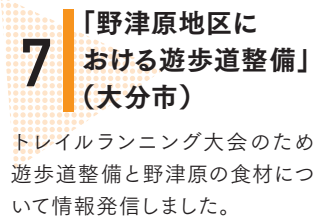
3 「府内ハロウィン
イベント」
(大分市)

府内五番街商店街と協力して学生主体のイベントを開催し、多くの方で賑わいました。



5 「おおいた和牛
普及プロジェクト」
(九重町)

おおいた和牛のブランド強化のため、町田パーネット牧場の窓ガラスをデザインしました。



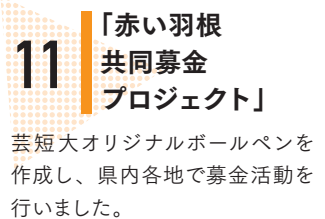
7 「野津原地区に
おける遊歩道整備」
(大分市)

トレイルランニング大会のため遊歩道整備と野津原の食材について情報発信しました。



9 「鶴崎23夜祭」
(大分市)

鶴崎商工会議所の方々と鶴崎23夜祭のイベントを企画・運営しました。



11 「赤い羽根
共同募金
プロジェクト」

芸短大オリジナルボールペンを作成し、県内各地で募金活動を行いました。



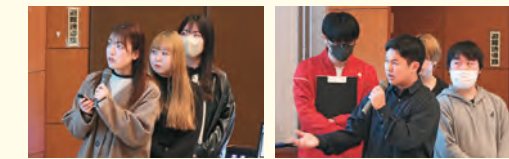
13 OITAサイクル
フェス
(大分市)

PRブースやコースを管理し、市民の方々にアンケートをとりました。

2年間の集大成
「卒業研究発表」を開催！

1月31日、2月1日の2日間、本学大講義室で情報コミュニケーション学科 卒業研究発表会を開催し、12研究室から54のテーマ発表が行われました。

2年間の集大成である卒業研究の概要を、学生自ら創意工夫して発表。社会仕組みや生活の中で興味・疑問に感じたテーマを掘り下げ、アンケート調査や過去の事例など、様々な論文を発表しました。情報コミュニケーション学科の卒業研究発表会は毎年人文棟大講義室と Zoom配信で行っており、今年も他のゼミ学生や後輩など多くの関係者の皆さまに聴講していただきました。



卒業研究タイトル(一部抜粋)

【心理スポーツコース】

- テニスの魅力を伝える-大会参加者、スクール会員、部活生の調査から-
- 子どもから見た夫婦関係と自己抑制型行動特性
- 幼少期の絵本経験は大学生の共感性と関係があるのか?

【地域ビジネスコース】

- 地方都市における持続可能な商店街組合の特徴に関する研究-府内五番街商店街組合を対象としたクロス SWOT分析-
- アートを活用した地域活性化の取り組み-九州各地の取り組みを事例として-
- 過疎化を食い止めるために-移住・定住に必要なこと-
- 若者の防犯意識の調査-大学生の防犯意識の調査とそれに基づく防犯活動の提案-

【情報メディアコース】

- ボカロ制作による若年層の著作権意識啓発-MVを通じて著作権を身近なものに-
- 越境型ライブコマースの課題と展望
- Chat-GPTを利用したプログラミングの可能性





01 赤い羽根ボールペン募金贈呈式を行いました

1月12日(金)、本学にて2023年度の「赤い羽根の共同募金応援プロジェクト」に関する募金贈呈式が執り行われました。

このプロジェクトは、美術科デザイン専攻の学生がデザインしたボールペンを活用し、本学が実施する「サービスマーケティング」の一環として、学生らが県内各地で募金活動を行うもので、今年で11年目の開催を迎えました。

式典では冒頭、安藤善之事務局長からサービスマーケティングとして募金活動に参加した学生へ労いの言葉が述べられ、学生を代表し、情報コミュニケーション学科1年の徳永尚さんが、今年度の募金、計148,845円の目録を、大分県共同募金会の代表者に手渡しました。

また、11年目を迎えるこの活動に、社会福祉法人大分県共同募金会より感謝状が贈られました。大分県共同募金会を代表して細川浩明常務理事より感謝の意が伝えられ、預かった募金は、大分県内の各種、社会福祉事業に用いられることが述べられました。

今後も、このような福祉貢献活動に積極的に参加していきたいと思えます。



日々是精進

音楽科

- 第29回 フッペル鳥栖ピアノコンクール
ジュニア部門 Aコース 大学・一般の部 第3位
眞辺 恋音(2年 ピアノコース)
ジュニア部門 Bコース 大学・一般の部 銀賞
志賀 春美(1年 ピアノコース)
- 第29回 KOBE国際音楽コンクール
声楽部門 C部門(18歳以上35歳以下)本選 入選
高瀬 日向(2年 声楽コース)
- 第77回 全日本学生音楽コンクール北九州大会声楽部門大学の部
奨励賞
塩田 唯斗(2年 声楽コース)
入選
辻沙 弥佳(2年 声楽コース)
入選
前田 光稀(1年 声楽コース)

専攻科

- 第48回 全国大学版画展
優秀賞
宇野 美香(2年 グラフィックアートコース)
- 第29回 宮日音楽コンクール
ピアノ部門 大学生の部 本選 優秀賞
坪井 梨乃(2年 ピアノコース)
管楽器部門 大学生の部 本選 入選
古城 温香(1年 管弦打コース・フルート)
小林 萌々葉(1年 管弦打コース・フルート)
- 第29回 KOBE国際音楽コンクール
声楽部門 C部門(18歳以上35歳以下)本選 入選
塚元 由菜(2年 声楽コース)
- 第3回 国際声楽コンクール 東京 本選
入賞 塚元 由菜(2年 声楽コース)
- 第77回 全日本学生音楽コンクール北九州大会声楽部門大学の部
第2位及び同コンクール 全国大会 入賞
塚元 由菜(2年 声楽コース)
入選
立石 彩乃(2年 声楽コース)

竹田キャンパス通信

竹田キャンパスは、ゼミやサークルでの合宿、創作活動の拠点として竹田市に2010年4月にオープンした、芸文短大と地域との交流の場です。ここ竹田キャンパスには石臼があります。これは私が学生の頃、故吉村正郎先生が「餅つきしたいわぁ」と言いだして一緒に石材屋を巡って購入したものです。やり方については当時の学食のおいちゃん、おばちゃん達に教えてもらい、事あるごとに餅をついてみんなで遊んでおりました。今でもここ竹田キャンパスや本学で使用して重宝しております。「先生、ちゃんと今でも大事に使ってるよー」餅つきしたい方おられましたら、貸出も致しますので声をかけてください。
非常勤講師 大学OB 前田亮二



学長「インム

「生きる欣び」

「MFでの経験 真の「ダイバーシティ」とは？」



似顔絵：学長秘書首藤尚子

MF(国際通貨基金)は極めてダイバーシティのない組織でした。英米の経済学部で経済学博士号を得た職員が大部分でした。改革のためにアフリカ系の女性が担当となり、第2位の株主である日本の理事の私の元へ考え方を聞きに来ました。「EUを最初に提案したのは、日本人だったというのを知っていますか」と彼女に聞いたところ彼女は驚いていました。

1894年に初代オーストリア帝国大使と日本人妻みつ子との間に東京で生まれたりヒアルト・クーデンホーフ・カレルギーが1923年に書いた「汎ヨーロッパ」がベストセラーになりました。将来は東洋は日本が中国、西半球は米国が支配することになり、欧州が小国に分立していると彼らに対抗できないので統一されるべきだと彼は提案しました。ヒトラーから目の敵にされた彼は、オーストリアから、チェコスロバキア、ユーゴスラビア、イタリア、スイス、ポルトガル、モロッコと逃避行を続けました。米国行きのビザを得てニューヨークに着いた彼の話が出版されて大評判になり、映画となったのが「カサブランカ」でした。

学友会

新しく学友会長になりました。美術科美術専攻1年千綿麗陽です。学友会は現在12人で活動しています。来年度も芸短祭をはじめ、たくさんイベントを開催します。皆さんと素敵な思い出を作れるように頑張ります。3月には、先輩方の卒業パーティを行う予定です。ぜひお越しください。また、学友会メンバーは随時募集しております。2年次からでも大歓迎です。私たちと共に芸短を盛り上げましょう!

